

**安井てつ(哲子)** 教育家。新渡戸稻造の要請で東京女子大学創立責任者となり、学長になると、左翼学生を弾圧から守った。  
やすいてつ  
初の日刊新聞1870 = 東京駒込の旧古河藩主邸内で、旧藩士の長女に生まれる。

**明治6年政変** 1873 = 3歳：

武士気質の家庭に育つ。

**琉球処分** 1879 = 9歳：  
誠之小学校から、

**明治14年政変** 1881 = 11歳：  
東京女子師範学校付属女学校、  
女子師範学校を経て、

**初の対等条約** 1888 = 18歳：  
**帝国憲法発布** 1889 = 19歳：  
帝国議会始・1890 = 20歳：\_学制で変わった女子高等師範学校の第一回卒業生となり、直ちに母校助教論・付属小学校訓導となる。

**大本教** 1892 = 22歳：岩手県尋常師範学校へ移ったが、

**日清戦争始** 1894 = 24歳：母校に復帰。

**白馬会** 1896 = 26歳：\_突然家政学・教育学研究のための留学を命じられ、津田梅子に英語を習って、  
八幡製鉄始・1897 = 27歳：\_イギリスに出発、

**日露戦争始** 1904 = 34歳：\_シャム国政府の招聘を受け、シャム皇后女学校教育主任となり、  
**日露戦争終** 1905 = 35歳：  
満鉄発足・1906 = 36歳：  
韓国反日暴動1907 = 37歳：\_終了後、イギリスを再訪して、ウェールズ大学に学び、  
アラギ創刊・1908 = 38歳：\_帰国。学習院および母校の学監となる。

**明治天皇没** 1912 = 42歳：

**21ヶ条要求** 1915 = 45歳：

**ロシア革命** 1917 = 47歳：\_新渡戸稻造に要請され、海外の布教団体の後援による東京女子大学設置理事に就任、  
本格政党内閣1918 = 48歳：\*東京女子大学(専門学校として認可)が開校すると、学長新渡戸稻造のもとで、学監となり、実質的責任者として、その基礎をつくって行く。  
**ベーリング条約** 1919 = 49歳：新渡戸・後藤新平とともに、欧米を視察し、  
**原敬首相暗殺** 1921 = 51歳：

**関東大震災** 1923 = 53歳：\*新渡戸のあとをうけて、第2代学長になる。  
**護憲三派圧勝** 1924 = 54歳：荻窪の新校舎(現在の場所)に移る。

その進歩的な教育観は、学長就任に際して語った「キリスト教主義的人格教育の重視、体育の重視、リベラル・カレッジとしての学園づくり、学究生活と社交的生活の調和」などの抱負によく示されている。

共産党事件・1928 = 58歳：\_以降、左翼弾圧で学生が検挙され批判を浴びるが、個人の思想選択を尊重し、退学学生をむしろ保護。

**満州事変** 1931 = 61歳：

**国際連盟脱退** 1933 = 63歳：  
帝人獄事件1934 = 64歳：満州と朝鮮を旅行し、大連・旅順・奉天などで講演。

**日中戦争始** 1937 = 67歳：

大政翼賛会・1940 = 70歳：\*退職し、名誉学長。  
**日米開戦** 1941 = 71歳：  
1942 = 72歳：東洋英和高等女学校校長事務取扱となり、

年金+総武装 1944 = 74歳：東洋英和女学院院長代理となつたが、\_交通事故で健康を害し、  
**敗戦** 1945 = 75歳：辞任後、荻窪衛生病院で\_没した。  
東京女子大学の制度としての大学昇格はその後の1948年である。